

## 30年10月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 10月1日～ 30年10月10日

## 2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
10月分の回答企業数は14社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## ア. 国産材

## (1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/10月	11月	12月
入荷動向	スギ	△ 5.6	0.0	16.7
	ヒノキ	0.0	21.4	14.3
	カラマツ	△ 50.0	50.0	50.0
	トドマツ	△ 25.0	25.0	25.0
消費動向	スギ	5.6	11.1	5.6
	ヒノキ	14.3	14.3	7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 5.6	5.6	16.7
	ヒノキ	0.0	7.1	14.3
	カラマツ	△ 50.0	0.0	50.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	25.0

・スギ製材用原木の入荷動向は10月の減少から11月の横ばい、12月は増加に。ヒノキは10月の横ばいから11月、12月は増加に。カラマツ、トドマツとも10月の減少から11月、12月は増加に。

・スギ、ヒノキの消費動向は3カ月連続増加。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは10月の増加から11月、12月は横ばいに。

・スギの在庫動向は10月の減少から11月、12月は増加に。ヒノキは10月の横ばいから11月、12月は増加に。カラマツ、トドマツとも10月の減少から11月は横ばい、12月は増加に。

## (2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	30/10月	11月	12月
スギ	27.8	22.2	16.7
ヒノキ	42.9	21.4	28.6
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・製材用原木の価格動向はスギ、ヒノキとも強保合。

・カラマツ、トドマツは横ばい。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

- ・9月後半は天候が悪く入荷は少なかった。農繁期と重なり輸送への対応が十分できなかった。10月も消費量程度の入荷になる見込み（北海道）。
- ・9月まではトドマツの入荷順調だったが、10月に入り減少傾向。消費動向は地震の影響を取り返すべくフル生産（北海道）。
- ・秋雨前線の影響もあり入荷は対前年比で減少。消費は前月同様の荷動き（東北）。
- ・9月は降雨や台風の影響で出材は増えていないが、10月からは増加すると予想。製材量は横ばいで消費変わらず。雨で出材が少なかったため、在庫はあまり増えていない（中部）。
- ・10～12月のヒノキ丸太の入荷は横ばい。消費は10、11月はフル稼働だが、12月は稼働日の関係でやや減少。在庫は10、11月は横ばいだが12月は稼働日の関係でやや増加する見込み（中国）。
- ・豪雨災害の後遺症か、市場への出材が少ない状態が続いている。幸い当社は直接取引の素材業者が、値段はともかくヒノキを順調に出材してくれている。消費はスギ柱口は少ない状態が続く。ヒノキは原木入荷に合わせて製材量やや増加（中国）。
- ・出材のシーズンにも関わらず入荷が増えていない（中国）。
- ・スギ丸太の入荷は、径級や長さにもよるが全体的に多くなっている。台風や大雨等の天候不良が落ち着いたのも一因ではないか（九州）。
- ・10月は山仕事をしている人達が農繁期のため、一時的に丸太の出荷が悪い。消費は順調で残業1時間。在庫は10月やや減少（九州）。
- ・台風等の影響で山から丸太が出てこない（九州）。

(原木価格)

- ・カラマツ、トドマツの立木価格は上昇傾向にあるが、素材価格は上がってない。価格上げても入荷量は増加しない(北海道)。
- ・スギ、ヒノキともに前月と変わらずの引き合いが続いている(東北)。
- ・スギ、ヒノキともやや上昇、無い物高が多少感じられる(中部)。
- ・ヒノキ丸太は3カ月連続やや上昇する見込み(中国)。
- ・ヒノキ3m柱取り(14~16、18~20)が高騰。出材が増えれば即下落の見込み(中国)。
- ・川下の需要が一気に高まれば、原木単価の上昇は早いと思われる(中国)。
- ・スギ丸太は全体的に高めの水準になっている。特に小丸太3m材に関しては慢性的に不足している状況であり、一過性のものではないと思われる(九州)。
- ・ヒノキ丸太買い気あり。合板工場の進出が原因で原木価格やや上昇(九州)。

## 30年10月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## (3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/10月	11月	12月
生産動向	スギ	5.6	16.7	22.2
	ヒノキ	28.6	14.3	△ 7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	11.1	16.7	16.7
	ヒノキ	28.6	7.1	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 18.8	△ 12.5	△ 12.5
	ヒノキ	△ 8.3	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材品の生産動向は3カ月連続増加。ヒノキは10月、11月の増加から12月は減少に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは10月の増加から11月、12月は横ばいに。

・スギ製材品の出荷動向は3カ月連続増加。ヒノキは10月、11月の増加から12月は横ばいに。カラマツ3カ月連続横ばい推移。トドマツは10月の増加から11月、12月は横ばいに。

・スギ製材品の在庫動向は3カ月連続減少。ヒノキは10月の減少から11月、12月は横ばいに。カラマツ、トドマツとも3カ月連続横ばい推移。

## (4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/10月	11月	12月
スギ	柱角 KD10.5×3	5.6	11.1	11.1
	柱角 KD12×3	11.1	11.1	16.7
	通し柱 12×6	0.0	8.3	8.3
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	12.5	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	11.1	11.1	11.1
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	10.0	10.0
柱角 KD12×3		20.0	0.0	0.0
土台角 10.5×4		16.7	0.0	0.0
土台角 12×4		20.0	0.0	0.0
通し柱 12×6		12.5	0.0	0.0
ラミナ		0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	50.0	

・スギ製材品の出荷価格動向は柱角 KD10.5×3、KD12×3、母屋角、間柱とも強含み。その他の品目は横ばい。

・ヒノキは柱角KD10.5×3、KD12×3、土台角10.5×4、12×4、通し柱とも強含み。ラミナは横ばい。

・カラマツは梱包仕組み板、ラミナとも横ばい。

・トドマツサンギは強含み。

## モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・夏頃までの勢いはないが工場はフル生産となっている。適材原木不足のため生産歩留まりに影響が出ている(北海道)。
- ・1年で一番のサンギ需要期なのでフル生産、即出荷(北海道)。
- ・年内はスギ、ヒノキともに安定した出荷を見込む。ヒノキ集成土台の生産が順調に伸びている。出荷は前月同様引き合いは強い。全アイテムで在庫不足が目立つ。新アイテムのヒノキ集成土台の生産次第で出荷も多くなるスギ製品の引合いの強さ、生産課題等もあり在庫に強い懸念あり(東北)。
- ・スギ製材品の生産・出荷を増やさなければ受注に追いつかない。在庫は一貫して持つ余裕がない状況(中部)。
- ・ヒノキの生産動向は10月、11月は横ばい、12月はやや減少の見込み。出荷は10~12月は同レベルで出荷見込み。製品在庫は増減させない(中国)。
- ・生産動向はスギ柱口が少ない状態が続く。ヒノキは丸太の入荷量に合わせて生産量やや増加。出荷は年末にかけて需要が上向くと予想(中国)。
- ・増産を狙うほど川下の盛り上がりない。構造材の荷動きは関西方面で低迷している。下地材、小割材等の受注が増えているように感じる(中国)。
- ・スギKD構造材、羽柄材ともに出荷に大きな動きはない。間柱に関しては多少のダブつき感がある(九州)。
- ・生産・出荷ともに順調、残業1時間(九州)。

(製材品出荷価格動向)

- ・カラマツパレット梱包は輸入材の価格上昇が継続中。ラミナ価格は低位なままだが需要も少ない（北海道）。
- ・ガソリン価格値上げの影響で翌々月を目安にトドマツ製品に転嫁予定（北海道）。
- ・スギ製材品は前月より落ち着いたものの3m系の丸太不足、引合いの強さが目立つ。全体的に動きが好調（東北）。
- ・スギ間柱は10月より値上げ（中部）。
- ・ヒノキ製材品の価格を上げたいが、上がりきれない見込み（中国）。
- ・スギ製材品は大消費地の需要に迫力がないため出荷価格は横ばいだが、東京圏や中京圏が動き出すと相場は上昇する見込み。ヒノキは丸太の値上がりにもかかわらず、製品はなかなか値上がりしてない（中国）。

## 30年10月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

## (1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/10月	11月	12月
仕入動向	米マツ丸太	100.0	△ 100.0	100.0
	NZラジアータ	—	—	—
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	100.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	—	—	—
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	50.0	△ 100.0	100.0
	NZラジアータ	—	—	—
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入動向は10月の増加から11月は減少、12月は再び増加に。

・米マツ丸太の消費動向は10月の増加から11月、12月は横ばいに。

・米マツ丸太の在庫動向は10月の増加から11月は減少、12月は再び増加に。

## (2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/10月	11月	12月
米マツ丸太	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
NZラジアータ丸太	—	—	—
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太は弱保合。

## モニターからのコメント

(原木荷動)

(原木価格動向)

30年10月分

## 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

## (3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/10月	11月	12月
生産動向	米マツ製材品	100.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	—	—	—
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	100.0	△ 50.0	△ 50.0
	NZラジアータ製材品	—	—	—
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	△ 50.0	50.0	50.0
	NZラジアータ製材品	—	—	—
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産動向は10月の増加から11月、12月は横ばいに。

・米マツ製材品の出荷動向は10月の増加から11月、12月は減少に。

・米マツ製材品の在庫動向は10月の減少から11月、12月は増加に。

## (4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/10月	11月	12月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	0.0	0.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	—	—	—
NZ梱包材(割角)	—	—	—
NZ土木用材	—	—	—
その他	—	—	—

・米マツ製品の出荷価格は平角、正角、小割とも横ばい。

## モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

(製材品出荷価格動向)

- ・
- ・
- ・
- ・